

学食ビフォーアフター～学食をよりよくするには～

班員：西沢昂 北田春華 立場かおる 星野奈月

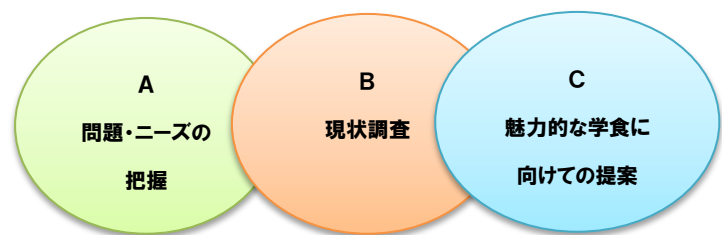
担当教員：鈴木勉 TA：山本克己

①背景

筑波研究学園都市の中心施設である筑波大学は、日本でも有数規模のキャンパスを有している。しかしキャンパスは近年機能低下が進行しており、経年 25 年以上のものが全体の 48%を占めている。これらの一斉に老朽化を迎えたキャンパスの、計画的な改修整備と維持保全が緊急の課題となっており、また、老朽化の問題だけでなく時代の変化への不適合などの課題もある。これらの課題を解決することはスマートなキャンパスを目指すためには不可欠なことである。

②目的

学食は学生生活に大きく関わり、改善することでよりよいキャンパスを目指せると考えられる。問題やニーズの把握、現状の調査、さらに提案をすることで学食をよりよい環境にすることを目的として設定した。



③学食の問題・ニーズの把握

- 文献調査：学生生活実態調査（学群）平成 20 年度
 - ・学食は整備・充実してほしい施設の 1 位で 40%以上の学生が学食に対して何らかの不満や要望を持っている。
 - ・53%の学生が昼食を学食でとる。
- ヒアリング調査：厚生会・学食の利用者

学食に具体的にどういった問題やニーズがあるのかを知るために、厚生会と学食の利用者にヒアリング調査を行った。

 - ・厚生会へのヒアリングの結果充実してほしい施設の 1 位に選ばれたことについては、値段が一番の要因だと考えられている。
 - ・利用者へのヒアリングでは学食への不満の要因として混雑している、営業時間が短い、狭い、値段が高い、清潔感がない、1 人で食べづらい、味が悪い、雰囲気良くない、デザインが悪いといった点があがった。
 - ・学食の食事以外の利用目的は勉強、雑談、ミーティング、休憩・暇つぶし、読書などであることが分かった。
 - ・調査の過程で学食のオフピーク時の利用の問題や学内のデッドスペースの問題もあがった。
- 実態把握アンケート調査

ヒアリング調査で挙げた項目がそれぞれの程度問題となっているのか、また、学食へのニーズを知るために学群生を対象にアンケート調査を行った。

 - ・調査から約 90%の人が混雑を不満に感じている。（図 1 参照）
 - ・学食の食事以外の利用目的の上位 3 つは勉強、休憩・暇つぶし、雑談であった。（図 2 参照）
 - ・勉強をする場所には図書館もあるが、図書館を選ぶ人は静かなことなどを理由としてあげる一方、学食を選ぶ人はグループでの勉強をしやすいことなどを理由としてあげた。

- ・学食は多くの学生の生活に関わる施設である一方、問題も多く抱えている。
- ・不満要因としては混雑が大きな問題である。
- ・空間利用の問題としてはオフピーク時の利用やデッドスペースの問題がある。
- ・学食のニーズとしては、グループでの勉強や休憩、雑談など学生の集まる場所としてのニーズがあると考えられる。

④ 3 学大食堂の現状調査

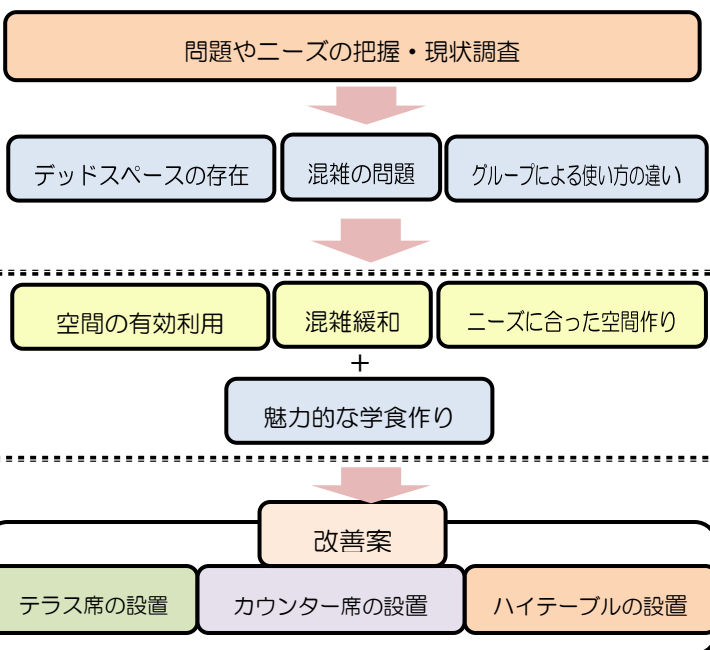
現状調査では昼食時前後の利用者の滞在時間、目的、グループの人数など学食が実際にどういった利用のされ方をしているか、また学食の問題点として挙げた混雑がどの程度なのかを知るために 3 学食堂を対象にビデオ撮影による調査を行った。

●調査結果・考察

- ・ビデオ調査の結果を席と時間ごと視覚的に表したのが図 3。
- ・3 学食堂の混雑のピークは 11：40 分前後でピーク時には席の利用率が 90%前後にまでになる。
- ・人数別のグループ数で見た場合には 1 人のグループが最も多く、さらに 1 人での利用者は滞在時間が短い。（図 4 参照）
- ・1 人での利用者のうち約 50%がカウンター席を利用している。2 人以上のグループでカウンターを利用したのは約 3%だった。

- ・学食は実際に混雑している。
- ・利用者の多くの割合を占める 1 人客にニーズに応える必要があり、それは 2 人以上のグループとは異なると考えられる。

⑤魅力的な学食に向けての改善案



●提案

カウンター席・テラス席・ハイテーブルの設置（図 5、写真 1 参照）

i カウンター席設置

目的：3 学食堂奥のスペースの有効活用
座席数増加による混雑緩和
1 人利用者のニーズへの対応

ii テラス席設置

目的：屋外の芝生の有効活用
座席数増加による混雑緩和
開放的な空間づくり

iii ハイテーブル設置

目的：デッドスペースの有効活用
座席数増加による混雑緩和
おしゃれな空間づくり

⑥改善案の実験

改善案を実施し、その効果や問題点等を調べた。（表 1 参照）

● 3 学食堂への影響

- ・アンケートからは混雑緩和や席の確保に影響を与えた傾向が見られる。（図 6、7 参照）
- ・利用者の人数と滞在時間の変化を見ると、水曜日と木曜日の利用者は減少しており、利用者の滞在時間は延びているが、金曜日は逆の変化が起きた。（図 8 参照）

●カウンター

- ・昼食ピーク時しか利用されなかった。
- ・アンケートではデザインが悪いと回答した人が多かったのに加えて、奥にあって使いづらいといった意見もあった。
- ・利用しやすい、1 人で使いやすいといった意見も多くあった。

●テラス

- ・ピーク時以外にも活用されていた。
- ・雑談など食事以外の目的でも利用されていた。
- ・アンケートでは開放感がある、利用しやすいと答えた人が多く、目的は達成されたといえる一方で日差しや管理の問題などがあがった。

●ハイテーブル

- ・昼食時以外にも利用されていた。
- ・アンケートでは利用しやすい、おしゃれ、今後も利用したいと回答した人が多く、魅力的な空間につながったといえる。
- ・配置によっては乱雑に見えるという問題も見つかった。

- ・ビデオ撮影の結果からは改善案の実行による利用者数や滞在時間への確かな影響は見られなかったが、実験で設置した席は使用されていたので、需要はあったといえる。
- ・テラス席やハイテーブルの設置によりデッドスペースが有効活用されたといえる。
- ・カウンター席、テラス席、ハイテーブルはそれぞれ目的が達成され、設置することによる利点に分かった一方でさまざまな問題点もある。

⑦結論

A 問題・ニーズの把握

●問題点

今回の調査ではさまざまな不満の要因が浮かびあがり、特に混雑は大きな問題であることが分かった。空間利用の問題点としてはオフピーク時の利用やデッドスペースの存在があり、これに取り組むことはキャンパス全体の向上につながると考えられる。今回は混雑の問題と空間利用について取り扱ったが、営業時間の短さや値段など改善の余地がある。

●ニーズ

食事以外の利用目的などの調査から、学食は学生が集まれる空間としてのニーズがあると考えられる。

B 現状調査

ビデオ撮影の結果から実際にお昼休みなどは学食が混雑しているといえる。
またグループの人数などにより学食の利用やニーズが異なり、ニーズにどの程度応えるかなども考える必要がある。

C 魅力的な学食に向けての提案

●カウンター席・テラス席・ハイテーブルの設置

実験により席の需要があることが確認できたと同時にデッドスペースの有効活用の問題も席を設置することにより改善できたといえる。また実験からは以下の表のように改善策それぞれの利点と同時に問題点も明らかになった。

	利点	問題点
カウンター	1 人で使いやすい	デザインが悪い 奥まった所にある
テラス	おしゃれ 開放感がある	日射がある 管理が困難
ハイテーブル	おしゃれ	人目につきやすい 椅子の配置が乱雑

これらをふまえて改善案に以下の提案を付け加える。

- カウンター：デザインを改善し、入り口付近に配置する。
- テラス：パラソルをつけるなど、日陰に入るスペースに配置する。また防犯面を考慮して、管理法を徹底する。
- ハイテーブル：イスの種類を工夫するとともに、テーブル間や人の動線を考慮し、ゆとりある空間づくりを目指す。

●新たな提案

- ・速いテンポの BGM を流すと回転率が上がる、という既存研究がある。これを学食でも適用する。
ピーク時→速いテンポの曲をかけ、客の滞在時間を短縮。
昼食以外の時間→遅いテンポの曲をかけ、客の滞在を促す。
- ・他のデッドスペースに学食の客を誘導させ、混雑緩和を図る。
- ・他の食堂への応用
- ・厚生会に成果を提出するなどし、学校全体の活動につなげる。

⑧謝辞

こちらの方々から多大な協力をいただき、心より感謝申し上げます。

菊池 信孝 様（筑波大学学生生活課 副課長）
高谷 勝行 様（筑波大学学生生活課 専門職員）
高橋 義宏 様（筑波大学学生生活課シニアスタッフ）
塚本 聖 様（筑波大学学生生活課 専門職員）
筒井 祐子 様（筑波大学システム情報工学等支援室 学群教務）
3 学食堂の店員の皆様

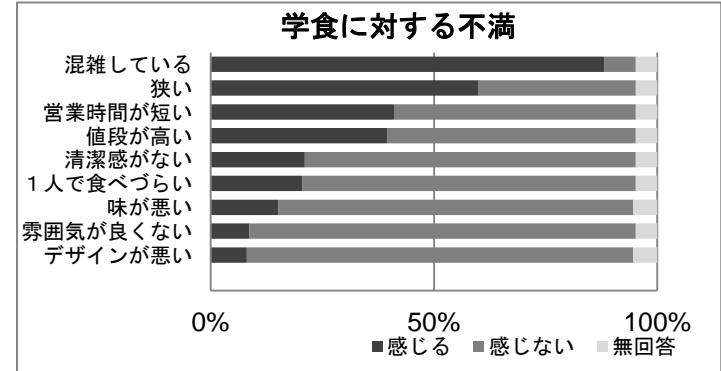
⑨参考文献

- ・筑波大学キャンパスリニューアル計画
<http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~shisetsu/05cr.html>
 - ・東大生協 HP
<http://www.utcoop.or.jp>
 - ・筑波大学キャンパス・施設紹介
<http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/campus.html>
 - ・BGM の効果及び問題点の研究―知的作業時を中心に―谷口葉月
<http://www.art.hyogo-u.ac.jp/hrsuzuki/students/hatuki.pdf>
 - ・社会的ジレンマ班 第三エリア 学生食堂 混雑改善計画
～混雑とは避けられるもの～
http://toshisv.sk.tsukuba.ac.jp/jisshu/jisshu1/report/2010/g4_dilemma/index.html
- 最終閲覧日 6 月 21 日
- ・平成 22 年度 学生生活実態調査（学群）
 - ・平成 20 年度 学生生活実態調査（学群）

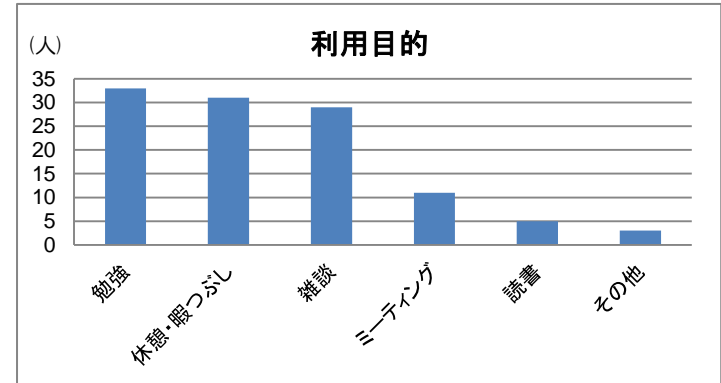
調査の概要

問題・ニーズの把握	文献調査	・学生生活実態調査（学群）平成 20 年度
	ヒアリング	・厚生会（4 月 25 日（水）9：00-10：00） ・学内の食堂利用者（4 月 27 日（金）14：00-16：00）
	実態把握 アンケート	・対象：学群生＜サンプル数：合計 185＞ 都市・地域・環境を探索＜80＞ 経済学入門 I ＜77＞ その他サークルなど＜28＞
現状調査	ビデオ撮影	・日時：5 月 30 日（水）～6 月 1 日（金） 10：45～13：00 ・対象：3 学食堂内の 11 テーブル 85 席
改善案の実験	実験評価 アンケート	・日時：6 月 8 日 ・対象：3 学大食堂利用者＜88＞
	ビデオ撮影	・日時：6 月 6 日（水）～6 月 8 日（金） 10：45～13：00 ・対象：3 学食堂内の 11 テーブル 85 席 設置したカウンター席 ・方法：3 学食堂内にビデオを設置・撮影
	カメラ撮影	・日時：6 月 6 日（水）～6 月 8 日（金） 10：45～13：00 ・対象：テラス・ハイテーブル ・方法：15 分毎に撮影

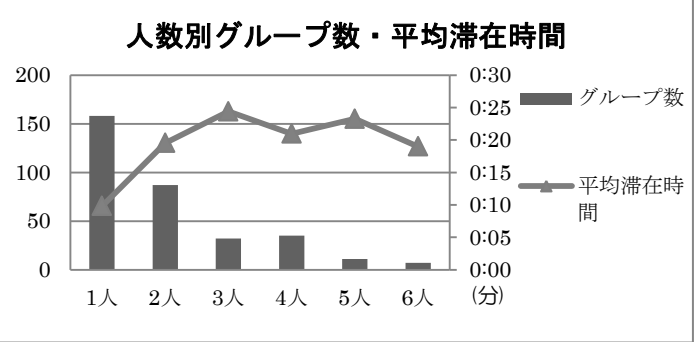
※表 1



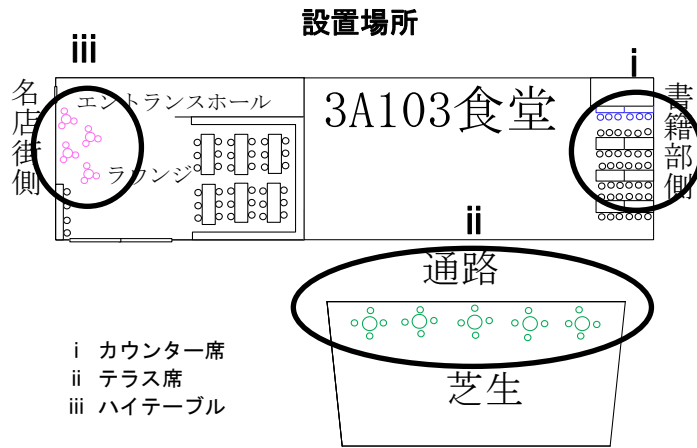
※図 1



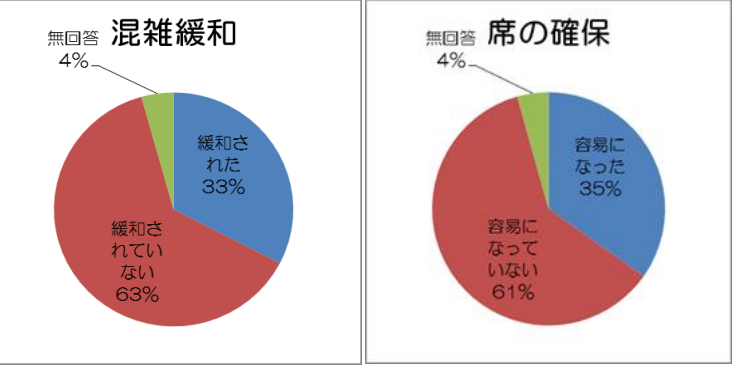
※図 2



※図 4

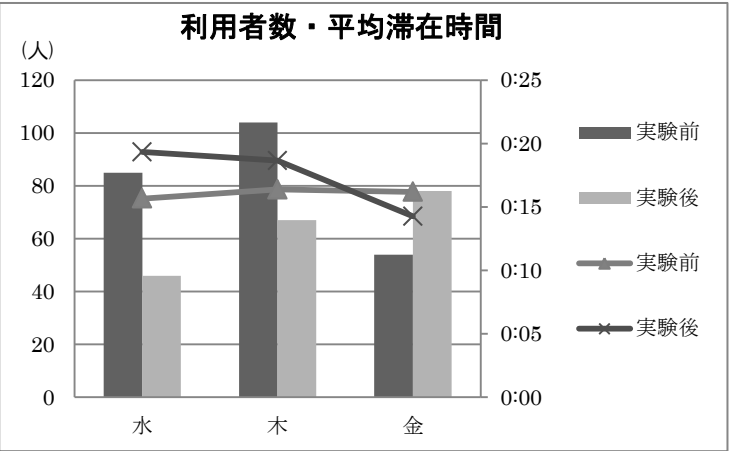


※図 5



※図 6

※図 7

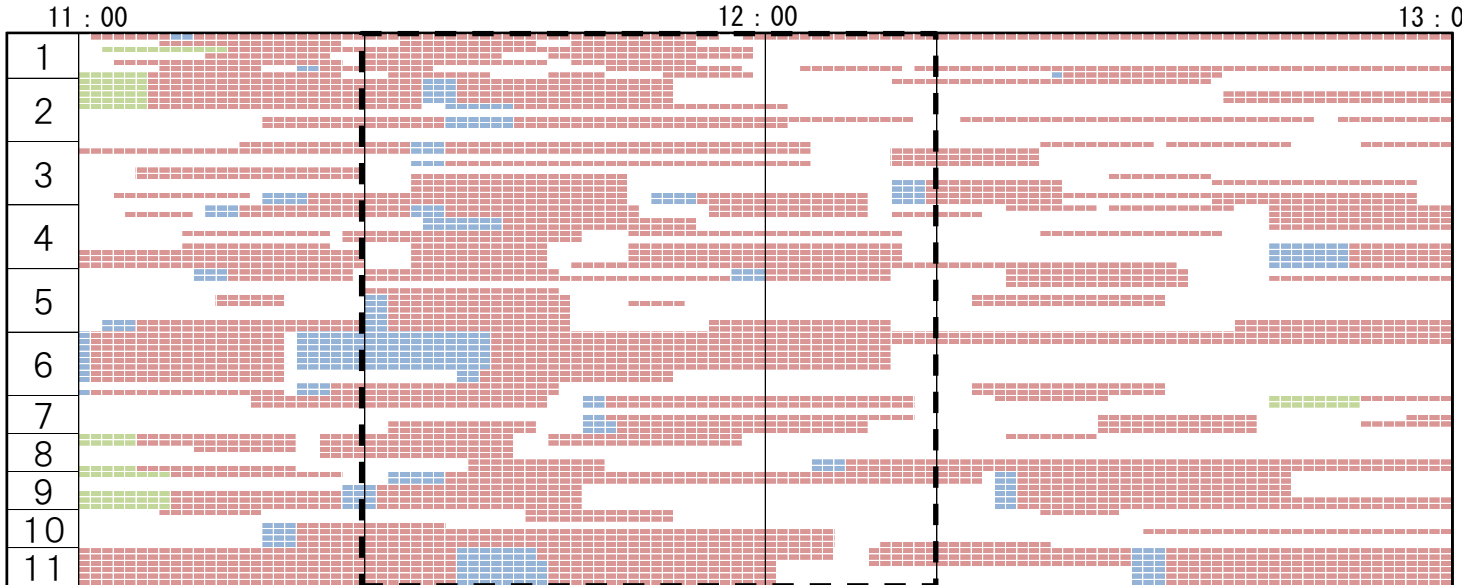


※図 8



席の利用状況

※写真 1



昼休み (11:25～12:15)

※図 3